

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第2週 (1/11-1/17) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		2週	1週	53週	52週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	16	18
	眼科	5	4	5	4
	インフルエンザ*	28	27	26	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	1/11-1/17	1/4-1/10	12/28-1/3	12/21-12/27	1/4-1/10	
			2週	1週	53週	52週	1週	
小 児 科	RSウイルス感染症		3 0.17	11 0.61	4 0.25	16 0.89	68 0.51	
	咽頭結膜熱		2 0.11	3 0.17	2 0.13	4 0.22	75 0.56	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	52 2.89	33 1.83	12 0.75	42 2.33	330 2.46	
	感染性胃腸炎		183 10.17	164 9.11	66 4.13	217 12.06	1,107 8.26	
	水痘		12 0.67	26 1.44	6 0.38	13 0.72	174 1.30	
	手足口病		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.04	
	伝染性紅斑		8 0.44	19 1.06	3 0.19	16 0.89	125 0.93	
	突発性発しん		19 1.06	14 0.78	8 0.50	8 0.44	56 0.42	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01	
	ヘルパンギーナ		0 0.00	2 0.11	0 0.00	1 0.06	2 0.01	
	流行性耳下腺炎	○	15 0.83	13 0.72	11 0.69	11 0.61	251 1.87	
イン フル	インフルエンザ*(高病原性鳥イン フルエンザを除く)	○	164 5.86	39 1.44	0 0.00	4 0.15	541 2.53	
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		1 0.20	4 1.00	0 0.00	2 0.50	27 0.84	
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		3 3.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		2 2.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出	腸管出血性大腸菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出及び
結核	女性	30歳代	画像診断		女性	50歳代	ヘロ毒素の確認
結核	女性	70歳代	画像診断等	侵襲性インフルエンザ菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出
結核	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	30歳代	病原体の検出
細菌性赤痢	女性	20歳代	病原体の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	70歳代	病原体の検出

・第2週は、結核4件(9)、細菌性赤痢1件(1)、腸管出血性大腸菌感染症2件(2)、レジオネラ症1件(1)、
侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症3件(3)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第2週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し2.89となった。過去10年の同時期と比べると最多。

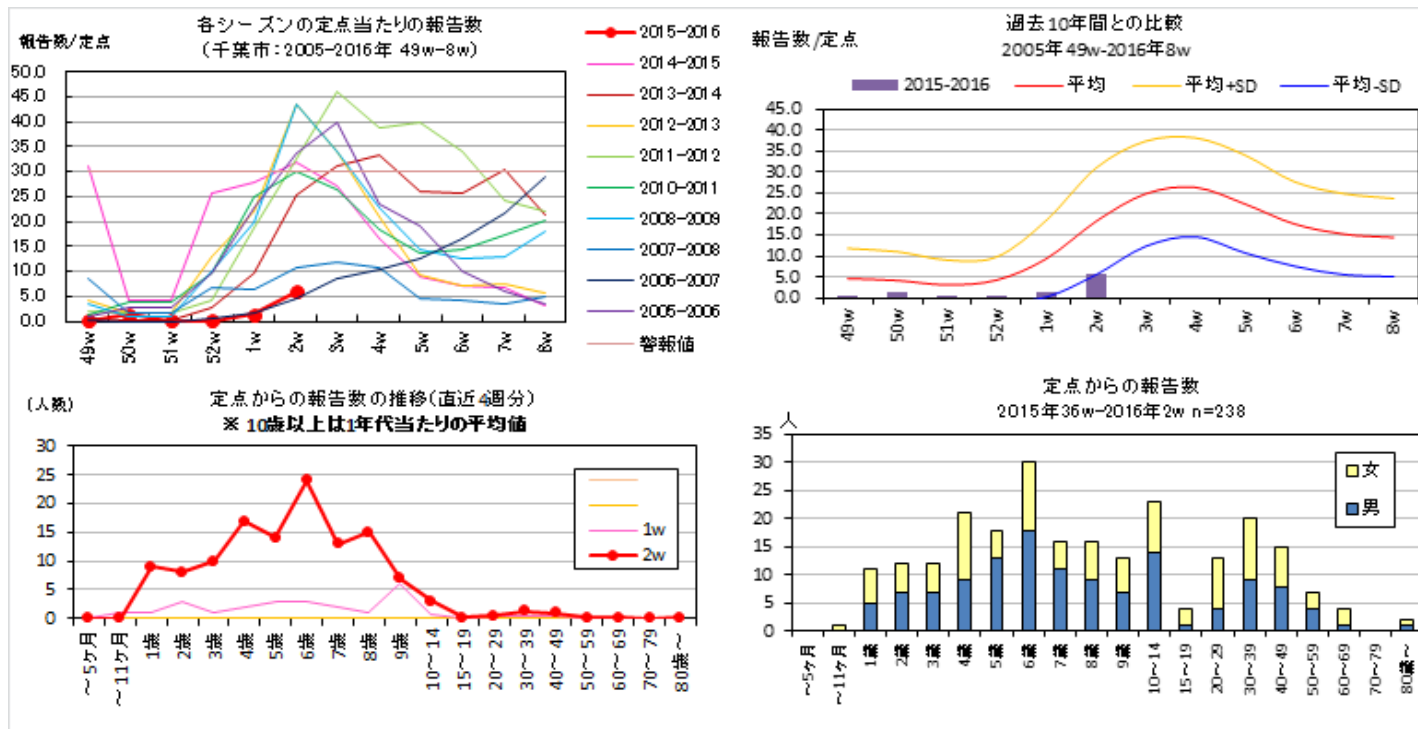
＜流行性耳下腺炎＞前週より増加し0.83となった。過去10年の同時期と比べると最多。

＜インフルエンザ＞前週より増加し5.86となった。過去10年の同時期と比べると少ない。若葉区で流行発生注意報基準値を上回った。

■ トピック ■

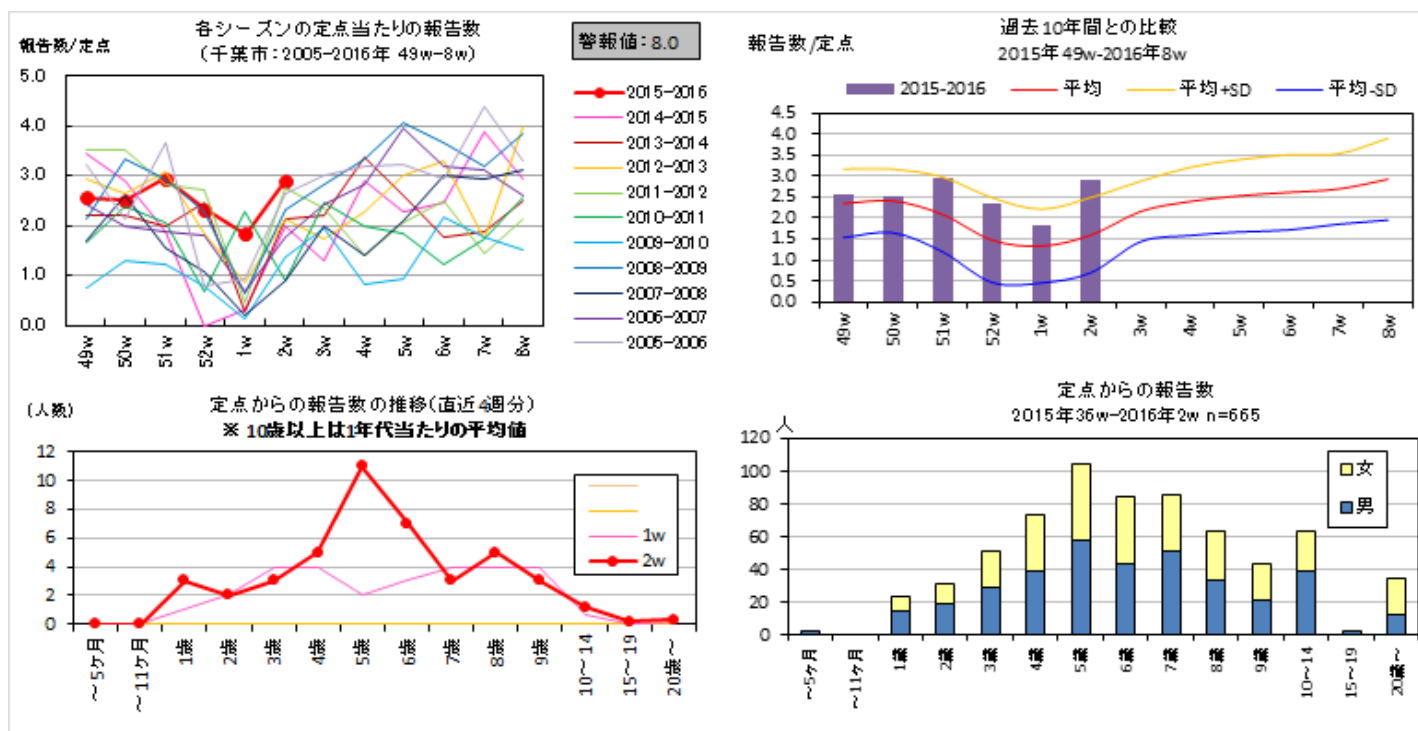
<インフルエンザ>

全国レベルの第1週は、過去9年の同時期と比べると少ないレベルとなっています。都道府県別では、沖縄県、秋田県、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第2週は5.86となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、若葉区(14.5/定点)で流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第2週までの累積報告数(n=238)によると、性別では男性が53.8%(128名)、女性が46.2%(110名)で、年齢階級別では6歳(12.6%:30名)、4歳(8.8%:21名)、5歳(7.6%:18名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第1週は、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、山形県、静岡県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第2週は前週から増加し2.89となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(5.25/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第2週までの累積報告数(n=665)によると、性別では男性が54.7%(364名)、女性が45.3%(301名)で、年齢階級別では6歳(15.6%:104名)、7歳(12.9%:86名)、6歳(12.8%:85名)の順で多くなっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第1週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、佐賀県、宮崎県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第2週は前週から増加し0.83となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、若葉区(2.5/定点)で最多で、同区の3歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第2週までの累積報告数(n=28)によると、性別では男性が64.3%(18名)、女性が35.7%(10名)で、年齢階級別では7歳(21.4%:6名)、3歳(17.9%:5名)、10歳代前半(14.3%:4名)の順に多くなっています。

